

「北見ハッカ通商 対談企画」

北海道新聞北見支社長が聞き手となり、ハッカ再興の取り組みを発信

かつては世界のハッカ生産量の7割を占めていた北見。しかし、安価な外国産に押され生産農家は減少。1983年には北見市内で最後の精製工場が閉鎖されましたが、「地元の文化であるハッカ文化の継承」という使命感から、1984年に創業されたのが北見ハッカ通商でした。



栽培から製品化まで、ハッカ再興の願いを込めて。

1984年創業の株式会社北見ハッカ通商。昨年6月にはオープンファクトリーをコンセプトにした社屋・工場を新設。さらに昨年12月には北見工業大学との共同研究講座「ハッカラボ」を開設した。栽培から製品化までを一貫して展開するハッカ再興を期す株式会社北見ハッカ通商代表取締役社長 永田裕一さんにお話を伺った。

「北見ハッカ通商の歴史を振り返ると、1984年の創業から始まり、1983年に最後の精製工場が閉鎖されたこと、そして1984年に創業されたこと、そして1984年に創業されたこと、そして1984年に創業されたこと...」

「北見ハッカ通商の歴史を振り返ると、1984年の創業から始まり、1983年に最後の精製工場が閉鎖されたこと、そして1984年に創業されたこと、そして1984年に創業されたこと...」



元号が令和に変わった直後の2019年6月、北見ハッカ通商は社屋と工場を一新。「オープンファクトリー」をコンセプトに、地場産ハッカの歴史資料展示ブースなどを設置し、早くも北見市内外から多くの見学者が訪れています。

そこで、同社の永田裕一社長に、対談企画を提案。北海道新聞北見支社長の川嶋が聞き手となり、北見産ハッカの歴史的背景や北見ハッカ通商の現在、これからの展望について語っていただきました。

北見ハッカ通商は、社屋や工場を新しくしただけでなく、地元・北見工業大学との共同研究講座「ハッカラボ」を開設し、ハッカの栽培効率化の研究や新製品の共同開発を進めています。また、国内外の物産展にも積極的に出展し、北見産ハッカブランドのPRに努めています。

対談企画の紙面を見た読者や同社の取引先からは、「北見ハッカの歴史が一目でわかった」「地元で根を張り、北見産ハッカの歴史や文化の再興・継承に取り組む姿勢がよく伝わった」などの反響の声が寄せられました。

(2020年2月2日 朝刊 全道版 全15段)

POINT!

(北見支社営業部 成田 一貴)

* トップによる対談を通して、企業の取り組みや目標を北海道中へ広く発信することが可能です。

◆ お問い合わせ／北海道新聞社営業局 (TEL011-210-5713) または 各支社営業部へ (2020.2) * ウェブサイトにバックナンバー掲載中! 【道新 営業局】で検索! (https://adv.hokkaido-np.co.jp/)